

沖縄県与那原町の調査

上杉 和央

京都府立大学文学部歴史学科3・4回生向け開講科目「地理学実習Ⅰ」では、現地調査を実施しているが、沖縄県内の市町村を1つ選択することを恒例としている。沖縄県を選択しているのは、歴史や文化が大きく異なる地域の調査を経験することで、沖縄の特性を知ると同時に、京都や地元の特性についても理解が深まることが期待されるからである。

また、実習期間について、6月23日を含んだ5泊6日を設定することを常としている。6月23日は「慰霊の日」であり、沖縄戦の終了が記念された休日となっている。その日には沖縄県各地で慰霊行事や平和に関する催しがなされるが、地域と戦争との関わりを学生一人一人に感じてもらうよう、個人の調査とは別に、班を組んで慰霊祭や平和行事への参加や調査を課している。

1. 今年度の調査概要

調査地は受講生のうち、3回生が相談して決めることにしている。今年度は検討の結果、与那原町が調査地として選ばれた。また、調査には「地理学実習」参加者に加え、大学院科目「地理学演習Ⅰ」の参加者、および教員数名も参加した。

調査概要は次の通りである。

調査日：平成27年6月19日～24日

調査地：与那原町

調査員：上杉和央・川瀬貴也・藤本仁文（教員）

奥谷三穂（共同研究員）

上中理帆・壁谷奈央・喜馬佳也乃・曾我部真衣・宮嶋健太（3回生）

加藤叡（4回生）

川崎雄一郎・宮下遥・棟田成紹・百瀬ちどり（修士1回生）

稲穂将士・山崎祐紀子（修士1回生）

川口成人（博士後期2回生）

このうち、3回生は個人調査と慰霊碑・慰霊祭調査を担当し、4回生以上は沖縄の文化遺産調査および慰霊碑・慰霊祭調査を担当する。なお、これらの調査成果は京都府立大学文学部歴史学科文化遺産学コース（上杉研究室）『与那原町』（2016）として刊行した。

2. 個人調査

上中は与那原町的美容院の歴史や現状についての聞き取り調査を実施した。壁谷は与那原町

の主要産業の1つである赤瓦生産について、生産関係者への聞き取り調査と現地調査を実施した。喜馬は沖縄の墓について関心を持ち、字板良敷の個人墓・管理型霊園について現地調査と聞き取り調査を実施した。曾我部は沖縄三大綱引きの1つとされる与那原大綱曳について、聞き取り調査を実施した。宮嶋は与那原商店街の変遷について、資料調査と聞き取り調査を実施した。

3. 慰霊祭調査

与那原町域には5基の慰霊碑があるが、そのうち6月23日に慰霊祭がおこなわれる字与原区の「与魂之塔」について、字与原区の了解のもと、慰霊祭への参加と聞き取り調査を実施した。また、昨年度に引き続き、社会組織や同窓会組織による慰霊碑・慰霊祭の調査についても実施することにした。取り上げたのは、沖縄師範健児之塔、沖縄戦殉職医療人之碑、嘉数の塔、白梅之塔、梯梧之塔、南北之塔、平和の塔、八重瀬之塔である。

さらに、本年度は京都出身の沖縄戦没者を祀った「京都之塔」について調査をおこなった。京都之塔についてはその重要性が現地で確認されたため、建立の状況や現在の管理状況を調査すべく、帰京後、奥谷によって植田喜裕氏に、奥谷・上杉によって国枝克一郎氏、野中広務氏に、聞き取り調査を実施した。また現地で平成27年に京都市立修学院中学校が修学旅行で京都之塔を訪れていたことを知ったため、奥谷・曾我部が同校の中学生・教員にインタビューをおこなった。お忙しい中、聞き取りに応じていただいた皆さまに感謝申し上げる。



写真1 与那原町の歴史・文化財について講話



写真2 与那原区の沖縄戦・慰霊碑に関する聞き取り調査



写真3 京都之塔と嘉数の塔



写真4 沖縄師範健児之塔の慰霊祭